

昔の人々が私達に伝えてくれた。

長谷開拓のあゆみ



入植当時のカヤぶき堀っ立て小屋

あれた土地から豊かな村へ

昔の長谷校区は、あまり豊かではあり
ませんでした。食べる物といえは野生
のタケノコツブアザミなどでした。

昭和十六年十一月に第二次世界大戦へ
突入していき男女どろろ強制的に働か
されるじょうきょうで、昔は豊かとは
いえませんでした。

長谷はどのようになつてきたのか

長谷は南神子町との間にあり、この昔の長谷の土地は石が倒れ来てお
谷は、私たちが生まれるずっと前は広
々とした原っぱでした。その原っぱを昔
の人は開拓しようと思ひました。けれど
それよりまくいくとはかぎらず、今とちが
い機械もなく、道具もさくさくなかなか
あつたのですが、昔の人々は今の熱意のた
め、あきらめず長谷を、開拓してくれました。

長谷について思うこと



わけており、くわやまきを打ちこんで
まは板かえを承てしまふほどだたそ
うです。私はなせ、こんな集中して最
後までできていたのかと思ひました。
私たちがたらはたとあきらめず、
きたらうか。自信はありませぬ。私
と昔の人々は子供や自分の夢のこと
を考えると、この開拓をな人としても
成功させようといつ氣持になだ
のではないかと思ひました。機械も
なく便利な道具があるわけでも
なくて豊かなくらうではないのに
最後までしてくれたのはすごい
と思ひました。